最後の一日ダルへ （アフリカ紀行Ⅳ最終） 山下久美子

最後の一日は、何かあったときのため、余分に一日とってあった日です。豪華なホテルで旅のこれまでの無事を乾杯しました。そして明日の午前中はゆっくりとホテルですごすことにしました。

私は、風邪気味で疲れていたのでマッサージをしてもらうことにし、アロマのマッサージでとても気持ちよく眠ってしまう始末でした。

売店へ行ってみると若い店員さんが手にヘナで描いた絵模様がきれいで思わず、写真を撮らせてもらいました。

午後迎えに来てくれたバスは、りっぱでびっくりしました。８人しか乗らないのに中型のマイクロバスで、新車に近かったです。ホテルは高級で、この旅行は、日本ではしない贅沢をいっぱい味わわせてもらいました。

昼食を終えたら空港へ行くまでに、一か所民族博物館に寄ることができ、タンザニア各地の民族の伝統的住居の復元や、民族のダンスも少し見れました。

民族博物館にて

バスの中から撮ったスナップ

アルーシャ(２枚)

ダル市の様子です。また、タンザニア鉄道も走っています。市場は、広場に物が並べられていて、雨が降ってきたらどうするのだろうと思ったりしました。いらぬ心配だったかな。今回は、町に出歩けず、バスの中から見ることが多かったですが、信号も少なく、止まれば必ずたくさんの物売りがバスに寄ってきます。ダルも１日目歩いた町と最後の日にバスで回った町は、大きな差がありました。中心地や海辺では、大きなビルや邸宅も建っています。貧富の差は激しいと思われました。裸足で歩いている人も多いです。

また、車もたくさん走っているのですが、ほとんど、日本車、トヨタが多いです。日本で１０年経ったからそろそろ、買い換えようと思っていたら、タンザニアでは、１０年落ちは、新車だよ。と言われびっくり。確かに車はほとんど中古車です。私は、今回の旅でアフリカを知る入り口に立ったに過ぎない。いや入り口にも立っていない。知らないことが多すぎるのに気づきました。

これでアフリカの旅の報告を終わります。一緒に旅をしてくれた仲間に感謝です。いい思い出ができました。(完)